Works

Kazuhiro Terashita

2024-12-30

### Thesis & Dissertation

1. **寺下和宏**. 2023.「韓国における女性団体とジェンダー政策：市民社会の政治的帰結に関する実証研究」神戸大学大学院法学研究科博士学位論文.
2. **寺下和宏**. 2019.「韓国における『慰安婦』運動の政治分析 ：『記憶する』アドボカシーと対立構造」立命館大学大学院国際関係研究科修士学位論文.
3. **寺下和宏**. 2017.「ヘイトスピーチと対抗する市民構造：差別問題に関するアドボカシーの検証」在素知贅 -2017年坂本治也ゼミ研究論文集-（2016年度関西大学坂本治也ゼミ提出論文）.

### Journal Articles

1. **寺下和宏**. 2023.「女性団体の活動は福祉予算に影響を及ぼすのか : 韓国・地方自治体の抗議イベントデータを用いた実証分析」『公共政策研究』23:139-155, **査読あり**.  
   [CiNii](https://cir.nii.ac.jp/crid/1520017611557227520)
2. **寺下和宏**. 2023.「ジェンダー予算とは何か : 文献レビューと韓国の事例から」『六甲台論集. 法学政治学篇』69(2):99-123.  
   [DOI](https://doi.org/10.24546/0100481136) [CiNii](https://cir.nii.ac.jp/crid/1390577133290861824)
3. **寺下和宏**. 2022.「市民社会組織のブーメラン戦略はいかなる政治的帰結をもたらすのか：日本におけるヘイトスピーチ解消法の事例分析」『ノンプロフィット・レビュー』21(1+2):81-93, **査読あり**.  
   [DOI](https://doi.org/10.11433/janpora.npr-d-21-00004) [CiNii](https://cir.nii.ac.jp/crid/1390010292841684224)
4. **寺下和宏**. 2022.「河川行政における官民協働の質的比較分析(QCA) : 行政の実施構造と民間団体の戦略に注目して」『季刊行政管理研究』(177):46-60, **査読あり**.  
   [CiNii](https://cir.nii.ac.jp/crid/1522543656137653248)

### Misc.

1. **寺下和宏**. 2022.「書評：Steel, G. (ed.). Beyond the Gender Gap in Japan, University of Michigan Press, 2019」『選挙研究』38(1):126-127.

### Presentation

#### Conference Presentations

1. **데라시타 카즈히로(寺下和宏)**. “The Political Legacy of Feminist Movements on Childcare Policies: Analyzing the Long-term Effects of Social Movements in South Korea,” 2024 한국정치학회 연례학술회의, 서울, 2024년12월. （= 2024 韓国政治学会年次学術会議）
2. **Terashita, Kazuhiro**, 이효진, 김정현. “누가 여성노동자를 대표하는가?: 지방의회 회의록을 통한 분석,” 2024 한국정치학회 연례학술회의, 서울, 2024년12월. （= 「誰が女性労働者を代表するのか：地方議会議事録を通じた分析」2024 韓国政治学会年次学術会議）
3. 곽선우, 정주현, 조은미, **Kazuhiro Terashita**. “국회의원의 유형과 지리적 프로필에 따른 지리적 대표성: 국회 회의록 발언의 지리적 추정을 이용한 실증분석,” 한국정치학회 2024 하계국제학술대회, 부산, 2024년8월. （= 「国会議員の類型と地理的プロフィールに応じた地理的代表性：国会会議録発言の地理的推定を用いた実証分析」韓国政治学会2024夏季国際学術大会）
4. **Terashita, Kazuhiro**. “Feminism Represent ‘Immigrant Women’?: Examining the Political Representation of Feminist Protests in South Korea Using Protest Event Analysis,” International Society for Third Sector Research 16th International Conference, Antwerp, Jul 2024.
5. **Terashita, Kazuhiro**. “Measuring News Bias in the Coverage of ‘Women’s Organizations’: A Comparative Latent Semantic Scaling Analysis in South Korea and Japan,” 8th Annual Association for Research on Nonprofit Organizations and Voluntary Action(ARNOVA) Asia Conference, Seoul, Jun 2024.
6. **Terashita, Kazuhiro**. “Inheriting Negative History: Feminist Movements and the Transformation of Red-light Districts in South Korea,” 28th edition of Alternative Futures and Popular Protest, Manchester, Jun 2024.
7. **Terashita, Kazuhiro**. “Who Represents ‘Immigrant Women’?: An Empirical Evidence from Local Council Proceedings in South Korea,” Korean Political Science Association 2023 Annual Meeting, Seoul, Dec 2023.
8. **寺下和宏**.「韓国における政治イベントと抗議行動：Semi-automated Protest Event Analysisによる検討」日本政治学会2023年度研究大会, 東京, 2023年9月.
9. **寺下和宏**.「女性団体・運動は女性の実質的代表に影響を与えるのか：韓国の議会議事録を用いた実証分析」日本選挙学会 総会・研究会, 東京, 2023年5月.
10. **Terashita, Kazuhiro**. “How Do Women’s Organizations Influence Welfare Budgets? : Empirical Evidence from Local Governments in South Korea,” International Society for Third-Sector Research 15th International Conference, Montreal, Jul 2022.
11. **寺下和宏**.「女性団体は福祉予算にどのような影響を与えるのか：韓国の地方自治体を事例に」日本公共政策学会2022年度総会・研究大会, 東京, 2022年6月.
12. **寺下和宏**.「NPO は女性・ジェンダーにどう向き合ってきたのか：Twitter 投稿のテキストマイニングによる検討」日本NPO学会第23回年次大会, オンライン, 2021年6月.
13. **Terashita, Kazuhiro**. “Strategies and Consequences of Social Movements in Enacting Ordinances: A Qualitative Comparative Analysis of Gender Backlash in Japan,” 25th edition of Alternative Futures and Popular Protest, Online, Jun 2021.
14. **寺下和宏**.「団体戦略からみるNPO・市民活動参加の規定要因：河川保全運動の質的比較分析を通じて」日本NPO学会第22回年次大会, オンライン, 2020年11月.
15. **寺下和宏**.「社会運動の行政施策に対する影響力の分析：河川協力団体制度の事例比較を通じて」日本政治学会2020年度研究大会, オンライン, 2020年9月.
16. **寺下和宏**.「ヘイトスピーチに対抗する市民アドボカシーの分析：民団の請願活動と草の根カウンター運動の比較を通じて」日本NPO学会第20回年次大会, 東京, 2018年6月.

#### Poster Presentations

1. **寺下和宏**.「自然言語処理（NLP）を用いた抗議イベントデータ作成の半自動化――非英語圏としての韓国を事例に」日本政治学会2022年度研究大会, 京都, 2022年10月.

#### Panel and Roundtable

1. 大倉沙江, 三浦まり, 小谷幸, 金美珍, **寺下和宏**, 坂本治也, 菊池遼.「パネル：日本の政治・社会におけるジェンダー不平等と女性運動・女性団体：アンケート調査の結果から」日本NPO学会第25回年次大会, 京都, 2023年6月.
2. 石本めぐみ, 遠藤智子, **寺下和宏**, 大倉沙江.「パネル：NPO・市民活動は女性・ジェンダーにどのように向きあうべきか」日本NPO学会第24回年次大会, オンライン, 2022年6月.

#### Workshop Presentations

1. **Terashita, Kazuhiro**. “Feminists are Radical or Moderate?: Measuring News Bias in the Coverage of Women’s Organizations’ in Japan and South Korea,” 多言語テキスト分析研究会, 札幌, 2024年11月.
2. **Terashita, Kazuhiro**, Juhyeon Jeong, Eunmi Cho, Sunwoo Kwak. “Regionalism or Geographical Representation?: Estimating the Role of Geographical Speech and Party Politics in South Korea,” 神戸大学政治学研究会, 神戸, 2024年9月.
3. **寺下和宏**.「韓国の女性団体とフェミニズム：代表の視点からみるアウトカムと課題」日本協同組合学会 ジェンダーと協同組合部会, オンライン, 2024年8月.
4. **寺下和宏**.「誰が『移民女性』を代表するのか：韓国における地方議会議事録を用いた実証分析」京都大学現代政治ワークショップ, 京都, 2023年11月.
5. **寺下和宏**.「女性団体はジェンダー政策に影響をもたらすのか：韓国・地方自治体予算の実証分析」ジェンダーと政治研究会, オンライン, 2022年3月.
6. **寺下和宏**.「女性団体は福祉予算にどのような影響を与えるか：韓国の地方自治体における実証分析」ソーシャルセクター研究会, オンライン, 2022年3月.
7. **寺下和宏**.「女性運動はジェンダー予算にいかなる影響をもたらすのか：韓国の地方自治体を事例に」政治学若手研究者フォーラム, オンライン, 2021年11月.
8. **寺下和宏**.「社会運動の戦略と制度外政治参加：河川をめぐる地域運動の質的比較分析」神戸大学政治学研究会, オンライン, 2020年7月.
9. **寺下和宏**.「韓国における『慰安婦』運動の発生と持続・変化の政治分析」神戸大学政治学研究会, 神戸, 2019年11月.

### Awards

1. 「優秀報告賞」日本選挙学会, 2024年5月.
2. 「博士（政治学） 秀逸 / summa cum laude」神戸大学大学院法学研究科, 2023年3月.
3. 「リサーチプロポーザルコンテスト 敢闘賞」立命館大学, 2018年11月.
4. 「歴代最優秀論文賞」関西大学法学部坂本治也ゼミ, 2017年3月.

### Funding

1. **[単独]** 2023年4月-2026年3月: 日本学術振興会 科学研究費助成事業 特別研究員奨励費「マイノリティ政策と市民社会の政治的代表：韓国・地方自治体の外国人支援政策を事例に」
2. **[単独]** 2022年4月-2023年3月: 国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST） 次世代研究者挑戦的研究プログラム事業 神戸大学異分野共創による次世代卓越博士人材育成プロジェクト「女性団体はジェンダー政策をもたらすか：韓国における地方自治体を事例に」
3. **[単独]** 2022年4月-2023年3月: サントリー文化財団 若手研究者による社会と文化に関する個人研究助成（鳥井フェローシップ）「女性団体がジェンダー政策をもたらすとき：日本における地域女性団体の比較研究」
4. **[単独]** 2022年4月-2022年6月: 神戸大学/国立研究開発法人科学技術振興機構（JST） 神戸大学異分野共創による次世代卓越博士人材育成プロジェクト プレミアム・プログラム「女性団体と選挙：韓国・慶尚南道議員候補の参与観察を通じて」
5. **[単独]** 2021年8月-2022年3月: 日本学術振興会 若手研究者海外挑戦プログラム「社会運動がもたらす政治的成果の規定要因研究：韓国・女性政策の事例比較を通じて」

## Grants and Scholarships

1. 「日本NPO学会 若手研究者への国際学会参加支援助成金」, 支援対象学会：2024 ARNOVA Asia Conference, 2024年12月.
2. 「日本学生支援機構 第一種奨学金特に優れた業績による返還免除」, 2023年5月.
3. 「日本学生支援機構 第一種奨学金特に優れた業績による返還免除」, 2019年5月.
4. 「立命館大学大学院 博士課程前期課程研究実践活動補助金 国外研究実践」, 活動地域：大韓民国, 2018年11月.
5. 「立命館大学大学院 博士課程前期課程学生学会奨学金 国内学会発表奨励」, 支援対象学会：日本NPO学会第20回研究大会, 2018年6月.
6. 「立命館大学大学院 学生研究会活動支援制度」, 研究会名：総合政治学研究会, 2018年6月.
7. 「立命館大学大学院 成績優秀者奨学金」, 2017年4月, 2018年6月.